

海岸林を更新し、本を仕舞う

# クロマツ文庫



## 1 計画敷地 敷地●は新潟市西区青山海岸林に位置する。クロマツ林は江戸・明治期より住宅地に近い方から植えられ、新潟市という都市の発展に寄与している。

国土地理院



1947



1973



2003

## 3 海岸林を荒らす松くい虫

近年、海岸林では松くい虫による被害が顕在化している。松くい虫に対する免疫は現在の海岸林には備わっておらず、防除のために薬剤を空中散布したり、樹木に直接薬剤を注入したりすることで食い止めている。

しかしながらこれは短期的な視点での解決策に過ぎない。長期的な視点で海岸林を維持するためには、長い年月をかけてクロマツ林を多様な樹種で構成し、病害に強いクロマツ苗を新たに植えてゆくことで、より健全で強固な海岸林を作ることが目指されている。

また海岸林の内部にはクロマツの間伐材が放置されており、活用できる資源が多く存在する。



## 4 提起：海岸林と市民の関係性の再構築

海岸林の維持において市民が介入する機会は薄れ、先人が築き上げたクロマツの文化は潜在化している。また管理の実態が外からは見えず、海岸林と市民、海と市民の関係性は希薄化している。海岸林をこれからも長い年月をかけて維持してゆくためには、言葉ありきの保全ではなく、管理をしながらも市民が日常的に訪れる場所、そして海と住宅地を結びつけるような存在としてあり続ける必要がある。

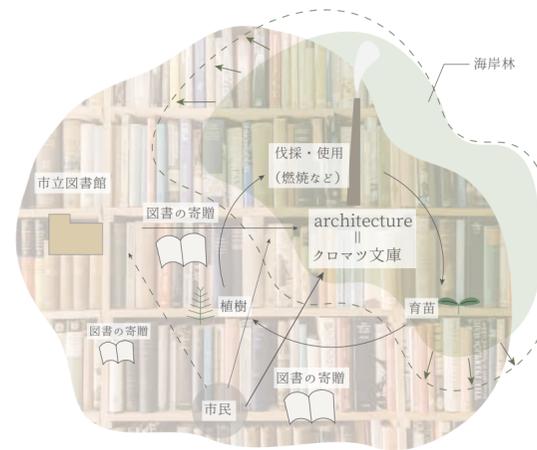
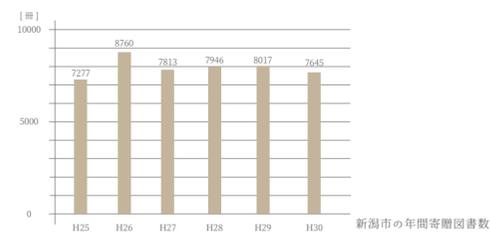


## 5 提案：海岸林の更新と居場所への転換

害虫に対する免疫が備わっていない海岸林に対し、新しい管理手法として「伐採・使用」、「育苗」、「植樹」というサイクルにより、新しいクロマツ林へと更新してゆく。

海岸林には寄贈図書や仕舞う文庫を設計する。長期的な管理を必要とする海岸林に、「本の蓄積」という新たな時間軸を重ねる。新潟市では年間約8000冊の寄贈図書が市立図書館に寄贈される。これらの本は管理場所や活用率の低さから有効利用されていないため、これらを仕舞い新たな価値を付加する。

海岸林に生まれた本を読むための空間は、管理を可視化すると共に育苗や植樹などを体験できる空間とする。寄贈する図書が多くなるほど空間は豊かになり、海岸林に対する愛着は増してゆく。



## 2 海岸林の歴史 海岸林は人の手により植えられた。

- 1843年 新潟奉行 川村修就  
海岸林の伐採を禁止  
6年間で3万本のクロマツを植える
- 1851年 新潟の海岸全域に砂防林が完成した
- 1911年 小学生が植えたマツは合計1万本に達する

→江戸・明治期より海岸林は人の手により1本1本植えられた。



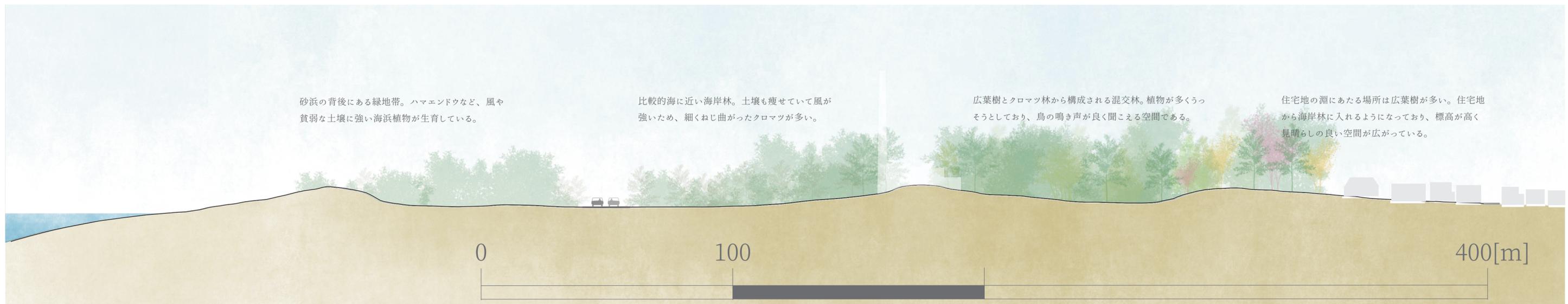
1959 新潟の砂丘の様子

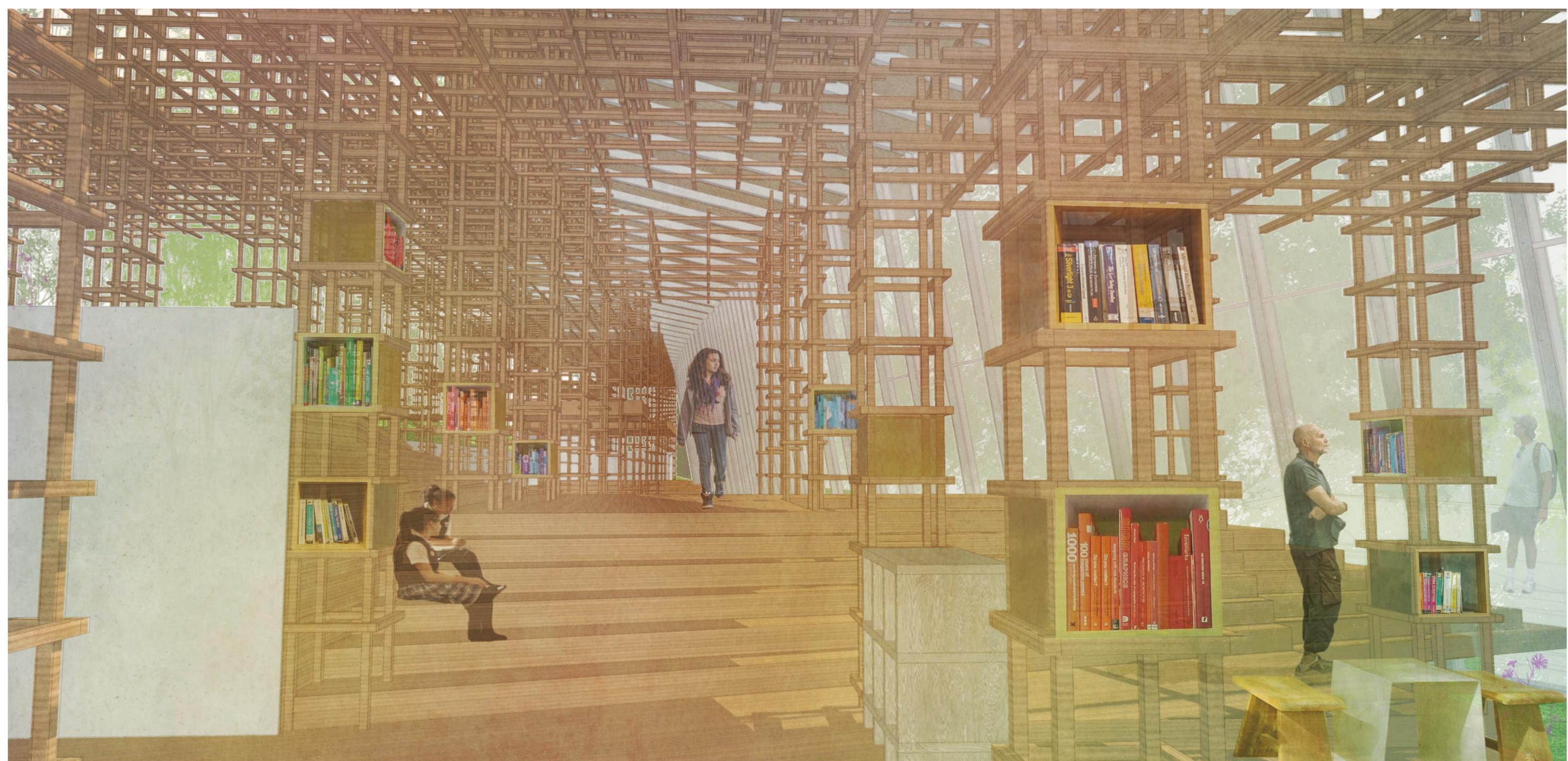
## 6 クロマツ林の更新プロセス



シンボルマークとなる煙突を中心に、海岸林の更新が行われる。松くい虫に弱いクロマツは伐採されて建材として使われる。使われない枝葉は燃焼し、排熱は読書空間を暖める際に使われる。クロマツを伐採した場所には病害に強い、新たな苗が植えられる。更新プロセスはこの先何十年も繰り返して行われ、クロマツがたくましく生育するとともに、海岸林に人々が楽しむための空間が作られてゆく。

## 7 海と住宅地、その間に存在する海岸林 青山海岸林には4つの樹木の層が存在する。4つの層の移ろいを一番感じる場所、中央部分の林道に建築を挿入する。





8 構法 石場建てによって建築を築く。海岸林の土壌への負荷を低減し、建物の通気性を確保する。

